

壊れゆく“若者たち”

File.52 デジタル症候群 ～LINEがトークを監視しています

文 石井 通明 text by Michiaki Ishii

最近、SNSを中心に広がった話題があります。LINEの設定画面に「トークの提供を許可する」というボタンが急に現れたというものです。多くの人が「勝手に情報を取られる」「急にこんな設定にしているなんて考えられない」と騒いでおりましたが、私からしたら、このような話題をしている人がいかに呑気かと感じてしまいます。

このボタンがあるにせよ、無いにせよ、結局データは管理されていると考えられます。これはLINEをサービス提供している側のデータ管理という

広義の意味であり、監視という意味ではありません。強いて言うなら、個人が個別にやり取りしている感情的な日常会話になんて全く情報価値はないのです。正直、そんな情報が仮に傍受されたとして、日々になんの影響もありません。それを言うなら、皆さんがスマホでネット検索している検索キーワードのほうが、よほど有用な情報として、Googleのような大きな会社に収集されています。Twitterも多くの人の投稿をもとに世の中の傾向の分析をしています。時代はすでに情報社会です。多くの人が、何を考えて



Profile
 東京都大田区生まれ。
 英国ウエールズ大学MBA(経営管理修士)。
 日本交渉学会会員。ハーバード流交渉学・消費者行動心理学・コンフリクトマネジメントを研究。日本コールセンター協会情報調査委員。
 (株)グッドクロス取締役COO
 長年コールセンター運営に携わり、人とのコミュニケーションについての研究を進めている。思いやりのコールセンターを展開。
 beccall1031642012088
<http://www.beall.jp>

いるのかという大局が重要になっていきます。その情報をいかに先回りするかが重要です。

すでに我々の住む世界はインターネットに支配されています。スマホを持っておらず、パソコンも電子機器も全く所有しないで生きているという人ならば支配されませんが、そういう人ですでに少数派に位置づけられており、世の中の大局をみたら「必要のないサンプル」と括られることになっていきます。

人間の行動パターンはすでに研究されており、どこでどのような考えが働き、どのような情報を提供すると、どのような風人が判断して動いていくかをパソコンがはじき出しています。世の中がコンピューターに支配されるといいう未来についても、すでにシナリオ

が描かれており、長い時間をかけて、ゆっくりと進行していくでしょう。多くの人が気付いた時には、もう手遅れになっていることでしょう。いえ、手遅れになっていることすら、気付かないように教育されているかもしれません。

